

第 196 号 発行日 平成 25 年 5 月 10 日

# 合格通信

今  
月  
の  
名  
言

人は能力だけではこの世に立つことはできない。たとえ、立身しても、機械と同様だ。  
人は能力と共に徳を持つことが必要である。

—野口 英世—  
(細菌学者)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

## 模擬テストの利用方法

**模擬テストはあくまでもその時点での学力を知るもの。志望校選択の資料とするには3年の12月以降の点数で決める。**



学校での実力テスト、塾での模擬試験の結果は志望校判定が出たり、学校内の順位が出たりするので、保護者も子どももとても気になるものです。しかも入試問題と同じ傾向で問題が作られていたりすると、実際の入試でも同等の点数を取ると思いがちですが、1年や2年の夏の模試の結果が2年半後、1年半後の入試の点数と同様に判断できるはずがありません、この時点での志望校判定はあくまでも参考資料にしかありません。むしろその結果から、自分の弱点を知り、弱点箇所を補強することが今後の学力アップに直結し、事前の対策で結果が出なければ勉強方法を見直す良い機会にもなります。ですから**模試というものは、受けた後の復習が大切です。次の模試では前の模試できなかったところができているようになっているかが問題なのです。**

受ける前の対策も重要です。模試は1年からの内容がすべて範囲となりますから、直前2週間前から対策をはじめても間に合うはずがありません。日常の継続した勉強が物を言います。**学校の予習復習に加えて、前学年までの内容を定期試験対策とは違って教科書準拠ではない「標準版」の問題集を使って復習を繰り返す必要があるのです。**中3生であれば、7月から毎月「新みやぎ模試」がありますが、この範囲表に沿って学習することで1年からの5教科の内容をまんべんなく計画的に復習することができます。毎年受験学年を指導していえることですが、夏の時点と冬ではまったく成績の伸びが違いますから、12月・1月の結果から自分の学力を判断すべきです。ただ前期試験の願書提出が12月10日ごろになりますので、確固とした志望校があるなら別ですが、まだ迷っているならランクを下げて受験するのは早計といえるでしょう。

～次回に続く